

教科(科目)	公民（公共）	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	実教出版 『公共』				
副教材等	実教出版 『ズームアップ公共資料2025』 実教出版『公共 演習ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ (1) 自ら考え、判断し、行動する力、生涯をとおして主体的に学び続ける人材を育成します。 (2) 他者や周囲を尊重し、多様な人々と協調して社会に貢献する力を持つ人材を育成します。 (3) 豊かな感性を備え、社会の一員としてのルールやマナーを大切にする人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ (1) 生涯を通じて学ぶために、基礎的・基本的な知識・技能の習得などの確かな学力の育成に重点をおき、全ての教科・科目において基礎学力の確実な定着を図ります。 (2) 地域と連携しながら、多様な職業や進路について学び体験する機会を設定し、主体的に進路目標を設定して、その実現に向けて粘り強く取り組む活動を推進します。 (3) 計画的なキャリア教育により、生徒一人ひとりが自己の在り方、生き方を考える機会を提供し、望ましい勤労観や職業観と積極的に進路選択する能力を育成します。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--

3 指導の重点

公民科では、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められている。これを受けて、「公共」は、小・中学校社会科や地理歴史科などで育んだ資質・能力を用いるとともに、現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどについて考察する必履修科目として設定されている。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査 など から評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査 など から評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業態度 ・発問評価 ・振り返りシートの記述の分析 ・ノート提出 など から評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名 〈教材名〉	学習活動(指導内容) 〈主な領域〉	時間	評価方法
1 学 期	第1部 公共の扉			授業態度 発問評価 提出課題 ノート提出
	第1章 社会を作る私たち 1 青年期とは 3 職業生活と社会参加	2 自己形成の課題 4 伝統・文化と私たち	4	
	第2章 人間としてよく生きる 1 古代ギリシアの人間観 3 自由の実現	2 科学と人間 4 社会を作る人間	4	
	第3章 他者とともに生きる 1 人間と幸福 2 公正な社会をめざして	人間は、自らの価値観を形成するとともに、他者の価値観を尊重することができる存在であることを理解させる。	1	
	第4章 民主社会の倫理 1 人間の尊厳と平等 2 自由・権利と責任・義務	人々の意見や利害を調整することを通して、人間の尊厳と平等、社会の安定が、公共的な空間を作る上で必要であることを理解させる。	1	
	第5章 民主国家における基本原理 1 民主政治の成立 3 民主社会のしくみと課題 4 世界の主な政治制度	2 民主政治の基本原理	4	
	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち			
	第1章 日本国憲法の基本的性格 1 日本国憲法の成立・基本的性格 2 自由・平等に生きる権利 3 社会権と参政権・請求権 5 人権の広がりや公共の福祉 6 平和主義とわが国の安全 7 こんにちの防衛問題	4 新しい人権	7	
2 学 期	1 学期期末考査		1	定期考査
	第2章 日本の政治機構と政治参加 1 政治機構と国会 2 行政権と行政機能の拡大 3 公正な裁判の保障 4 地方自治と住民福祉 5 政党政治 6 選挙制度	7 世論と政治参加	14	授業態度 発問評価 提出課題 ノート提出
	第1章 現代の経済社会 1 経済主体と経済活動の意義 3 市場のしくみ 5 現代の企業 7 経済成長と国民の福 9 日本銀行の役割 11 日本の財政と課題	2 経済社会の変容 4 市場の失敗 6 国民所得 8 金融の役割 10 財政の役割と租税	15	
	2 学期期末考査		1	定期考査
3 学 期	第2章 日本経済の特質と国民生活 1 戦後日本経済の成長と課題 2 転機に立つ日本経済 3 経済社会の変化と中小企業 5 消費者問題 7 労働問題と労働者の権利 8 こんにちの労働問題 9 社会保障の役割	4 農業と食料問題 6 公害の防止と環境保全 10 社会保障制度の課題	7	授業態度 発問評価 提出課題 ノート提出
	第1章 国際政治の動向と課題 1 国際社会と国際法 3 こんにちの国際政治 5 軍拡競争から軍縮へ	2 国際連合と国際協力 4 人種・民族問題 6 国際平和と日本の役割	4	
	第2章 国際経済の動向と課題 1 貿易と国際収支 3 第二次世界大戦後の国際経済 4 地域的経済統合の進展 5 国際経済のつながりと課題 6 発展途上国の諸課題と日本の役割	2 外国為替市場のしくみ	4	
	第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち			
	持続可能な社会をめざして	よりよい地域や社会、平和な国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会の課題の解決に向けて考察し、妥当性、実現可能性などを指標にして、自分の考えを論述させる。	2	
	学年末考査		1	定期考査

計 70 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・授業態度をチェックする。
- ・授業中に発問し評価する。
- ・各章の復習として課題を課す。
- ・定期考査毎に提出されたノート进行评估する。

8 授業担当者からの一言

日本は現在、さまざまな課題を抱え厳しい時代を迎えている。超少子高齢化と生産年齢人口の急減、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、中国・北朝鮮・ロシアなど近隣国との国際関係など、社会の変化はあまりにも急速・複雑で予測困難である。また、成熟社会を迎えた日本では、受け継がれてきた伝統・文化や、地域社会・共同体をどのように維持・継承していくかが課題となっている。このように大きな転換点において、これからの社会をよりよくしていくためには、日本社会や世界に向き合って関わりをもち、自らの人生を切り開いていくために必要な資質・能力を効果的に獲得しなくてはならない。そのために「公共」で多くのことを学んでほしい。積極的に授業に取り組むことが望まれる。